

現場活動時等の熱中症対策のため、活動隊員の 熱中症対策拠点「**ファイアエイドステーション**」 を設置します。

昨年、当消防組合管内では最高気温 が39.2℃を観測しました。本年も梅雨明け以降、猛暑日が続く昨年も暑い日が続くと予想されています。

これまで、住民の皆様に対して熱中症に関する注意喚起を実施しているところではありますが、猛暑日でも災害は待ってくれません。

京都中部広域消防組合では、災害活動時等における熱中症対策として、ダッシュプール（簡易水槽）等の熱中症対策資機材を導入し、計画的な活動隊員のローテーションを行い、災害の早期終息を目的に活動を行います。

1 ファイアエイドステーションにおけるダッシュプール（簡易水槽）の活用方法

長時間の活動や隊員の熱中症発症が危惧される災害現場で、消火栓や車両積載水を活用し、ダッシュプール（簡易水槽）を設定します。活動隊員は、上半身を脱衣（半袖）し手背及び前腕の冷却若しくは活動服のまま入水し、体温を下げ労作性熱中症の発症を防ぎます。

※ 労作性熱中症とは、炎天下でのスポーツや屋外での作業中に発生する熱中症

2 運用開始

令和8年7月

3 住民の皆さまへ

これからの時期、災害現場でテントや水槽等を設置し、活動隊員が休憩しているところを見かけることもあると思いますが、皆さまの安全を守るとともに消防隊員の熱中症対策と効率的な現場活動を実施しています。

ご理解のほどよろしくお願いします。

住民の皆さまも、熱中症には十分ご注意ください。

